

## 平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 名古屋大学

### 目的

本学においては、これまでの自由闊達な風土を生かしつつ、若手が飛躍するNagoya Universityを目指し、若手を中心に国内外の優れた人材を確保するための人事制度の抜本的改革、外国人、女性など多様な人材の育成並びに積極的な登用とその環境整備、持続可能な研究大学へと転換するための財務制度改革及び学術の深化とイノベーションの創出を有機的に結びつける新たな研究支援体制の整備を実施する。具体的には、国際的な研究者による次世代の世界最先端研究拠点を形成、若手・女性研究者の質と量を充実させ、徹底した人事の透明性・公平性を担保し、研究支援組織の統合・強化を実施する。さらに、一層の学内研究用機器の共有化促進を図り、同時に競争的環境を導入し、構成員の意識改革と研究の活性化を行い、世界トップ100大学に入ることを目標とする。

### これまでの実績・進捗状況

- 世界拠点形成支援・・・学内と海外の研究者から構成される最先端国際研究ユニット(WPI-next)を高等研究院に設置し、世界トップレベルの拠点形成を支援
- 若手イノベーション形成支援・・・学内の異なる分野の若手教員から構成される若手新分野創成研究ユニットを高等研究院に設置し、従来の枠に捕われない新領域分野開拓を支援
- 多様な人材の登用促進・・・高等研究院で実施している若手教員を採用し養成するYLCプログラムの中で、本事業における外国人枠と女性枠を設け、多様な人材登用を推進
- 人事制度改革・・・新規採用助教のテニュアトラック制度の導入、教員採用の透明化のための国際公募の実施、64歳以上の教員の年俸制への移行
- 財務制度改革・・・部局の間接経費配分比の増加による部局へのインセンティブ付与、大型外部資金獲得に向けたインセンティブ付与、特許収入の増加のためのインセンティブ強化
- 組織及びURAの職務環境整備・・・3つの研究支援組織を統合させ、窓口を一元化し、URA5グループによる全学的な研究力強化体制を構築するため「学術研究・産学官連携推進本部」を設置。URAのキャリアパス確立のため、4つの職階を設け、キャリアアップする制度の構築
- イノベーション戦略室設置・・・多様な観点からの分析によって、本学が世界をリードしていくべき分野の探索、開拓及び議論の実施
- 設備・機器共有推進室設置・・・共有可能な装置をHPに提示し、全学の機器共有化を推進
- 国際会議支援・・・名古屋大学の知名度向上を図るとともに、世界的拠点形成を支援



### 今後の課題と展望

- 本学は、国際標準の教育の推進により、様々な場面でリーダーシップを発揮し人類の幸福に貢献する「勇気ある知識人」の育成を目的としており、本事業が推進する国際共同教育研究ユニットの推進が国際連携を深め、今後のジョイントディグリープログラムの設置に繋がる。
- 総長のリーダーシップによる諸改革として「世界屈指の研究大学を支える財務基盤の構築」を挙げており、研究、教育に関する競争的資金、補助金を獲得するための支援体制の強化が必須である。学術研究・産学官連携推進本部の研究支援を進めるとともに、産学連携を通じた共同研究、企業研修による外部資金の獲得等、知財収入増加等、多様な財源の確保が期待される。
- 本事業の継続性を担保するために、学術研究・産学官連携推進本部の予算の恒久的な確保を行っていく。

### フォローアップ結果

評点区分：順調に進んでいる

#### 全体を通じた所見

- 研究強化に向けた新たな取組への予算措置が明確で、積極性が見られ、構想全体が順調に進んでいることが確認された。この体制を維持し続けることにより、研究力を大幅に強化し、世界のトップ大学の一つになることを期待したい。

#### 特に優れた点

- 本事業の推進を戦略的に推進する「学術研究・産学官連携推進本部」の設置、「最先端国際研究ユニット」や「若手新分野創成研究ユニット」など、研究力強化と基盤的機能強化を図る枠組みの構築とその実行、「イノベーション戦略室」による研究動向の分析・把握とそれに基づく研究戦略立案などは、全体が一つのシステムとして長期的展望に基づいた研究力強化の持続的推進の原動力となることが期待される。
- 女性教員の積極雇用、国際化へ向けてのジョイント・ディグリープログラムの設置、インセンティブを高めるための財務制度面での改革、新規採用助教のテニュアトラック制度導入など、多様な研究者への具体的取組が進んでいる。

#### 期待する点

- 事業全般が順調に進みつつある中で、国際若手招聘研究ユニットの設置については、やや遅れがあるように見られるため、今後の進展を期待したい。